

## 地域・学校づくり部会

高木 勝正

### 子どもも教師も生き生きする学校をめざして

前回の部会報告から2年が経ちました。前々回の報告の際に、たった2年の間に厳しい状況になったと書かせていただきましたが、さらにその状況は悪化の一途をたどっています。教師の働き方はすでに過労死ラインを越え、現場ではどの学校にも病気休職者あるいはその状況に入ってもおかしくない仲間がいるような状況です。

中教審答申に、「チーム学校」という言葉が入りましたが、みんなで話し合いながら子どもたちのために学校づくりをしていくというのではなく、管理職一人では責任が取れないから常に複数で対応することでリスタを減らすという、責任回避のための「チーム」であるように思えます。

部会では、墨田で7年間地域を巻き込みながら積み重ねてきた栄養士の実践報

告、子どもの貧困に正面から向き合っている子ども食堂の活動などにつながっている地域での実践報告、そして、小中一貫教育及びそれに付随して各地域で強引に押し進められている統廃合・施設一体型義務教育学校などの動きを報告してもらってきました。

とくに、子どもの貧困の問題と小中一貫教育の問題は継続的に課題として取り組んでいます。子どもの貧困についての取り組みは、地域の教会やお寺、町会役員や元教員・栄養士、ボランティア活動を通じた高校や大学など多くの大人たちが集まり活動を広げているとことが報告されました。

小中一貫教育と統廃合問題では、校舎の建て替えが絡む事案など各地で強引に進められているケースが報告されました。論議の中で、行政の説明責任不足の背景には、小中一貫を進めるべきである

という教育学的な説が聞こえてこない、他の自治体の先例に倣って進めているだけなど、何を目的としての小中一貫教育かという問いに対する答えを、実は政策を進める側がもっていないのではないかとといったことが浮き彫りになりつつあります。

課題はおおきく東京民研の一部会で検討しつくせるものではありませんが、運動体としてではなく、動向を分析しつつ、今、何が狙いとされ、子どもたちや学校をどういう方向にもっていこうとしているのかを見極めることと、教育運動としていくための有効な手立てはないかを交流を通して探っていきたいと考えています。

これまで教育運動にかかわってきた多くの研究者や現場の諸先輩教師といっしょに検討しながら、多忙な中でも現役世代にはぜひ知ってほしいと考えています。

(墨田・曳舟小)



東村山 子どもまつり